

自律・責任	自尊感情	協調性	コミュニケーション	思いやり	主体性	特別な支援の充実	市町教育委員会の取組
-------	------	-----	-----------	------	-----	----------	------------

主体性を育成するための取組

竹原市立竹原小学校 校長名：福田 明 【自校泊・大久野島国民休暇村】

キーワード：KSJ・地域の教育力

(K:協力, S:先を考える, J:時間を守る)

1 「学びの変革」の視点を取り入れた自校での体験活動の概要

(1) 児童の主体性を育てる視点

教職員が計画した活動を、教職員の指示のもと、「こなしていく」という活動では、児童の主体性を育てることはできないと考え、「自分たちで作る体験活動」を目指しました。



(2) 地域の教育力を活用する視点

学校を中心とした野外での活動を実施することによって、活動の内容を、児童の実態・希望に合ったものにすることができると、他の施設を利用するよりも、児童の主体的な活動が可能になります。また、地域の資源を活用することができるので、地域の良さの発見につながることができます。

	午前	午後	夜
1日目		陶芸教室	テーブルマナー（夕食） 星空観察会
2日目	朝食づくり 大久野島への移動	テント設営 ウォークラリー	うみほたる観察会
3日目	テント片付け フィッシング 学校への移動	水泳 カレー作り	キャンプファイヤー
4日目	朝食づくり 振り返り		

2 「自分たちで作る体験活動」にするための4つの取組

(1) 子供たち自らが目標を設定する。

「何の体験活動をするのか」「体験活動が終わったら、どうなっていたいか」ということを明確にさせていきました。そのために、「自分たちの長所で、より伸ばしていきたいこと」「課題なので改善したいこと」を、個人やグループで意見を出し合い、交流しながら整理し、学級全体の目標を決めていきました。

○K（仲間と協力する！） ○S（先を考える！） ○J（時間を守る！）

「子供たちが自ら目標を設定する」ことに関する児童の感想

- 自分たちで決めると「がんばろう。」という気持ちになって、やり切ろうと思う気持ちが強くなりました。
- 自分たちで目標を立てると、自分たちができていない所も分かりました。自分たちが苦手なことを目標にしたので、目標を達成することができた時は、より達成感を感じることができました。
- 自分たちで目標を決めると、自分たちに合った目標を決めることができます。より高いレベルに挑戦して、より活動を楽しむことができました。

(2) 自分たちで計画を立てる。

K S Jの目標を達成するための活動計画は、「地域の何が活用できるか」「目標達成のためには、どんな活動がふさわしいか」を、児童自らが考えて立てました。すべての活動を児童が計画すると、当然、無理な活動も計画してしまうので、教職員から可能な活動や講師の紹介などアドバイスをしていきましたが、できるだけ児童が、「自分たちが計画した野外活動」と感じるよう、アドバイスの仕方を工夫しました。



「自分たちで計画を立てる」ことに関する児童の感想

- 自分たちで考えたので、次に何をするのか、わすれることがありませんでした。
- 自分たちがやりたいことができたので、やる気も出るし、「責任をもってやろう」と思うようになった。
- 自分たちで計画を立てると、少し苦手なことにもチャレンジする意欲がわきました。

(3) 自分たちで活動を運営する。

主体性を育てるために、担当児童を明確にして自分たちで活動を運営させました。できるだけ教職員が指示を出すのを控え、児童自身に会の進行や活動の説明をさせました。すべての児童が何らかの活動の運営に関わるようにさせ、責任をもって役割を果たすことを意識させました。



「自分たちで活動を運営する」ことに関する児童の感想

- 「自分たちがやっている」という気持ちになって、とても楽しかったです。
- 自分たちが進行したので、「自分だけではなく、みんなで行動している」ことがよく分かりました。より積極的に活動に参加できるようになったと思います。
- 自分たちが、どこまでできるか試すことができました。先生たちがいなくても、いろんなことができるようになると思いました。
- どうしたらいいか考える力がついたと思います。人前に出て話をするが増えて、やりきることで、自信がつけました。

(4) 自分たちの活動を振り返る。

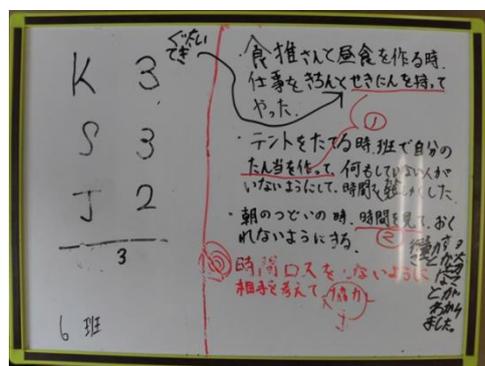
毎日、1日の終わりに振り返りを行いました。また、体験活動最終日にしっかりと時間を確

保して、自分たちの活動を振り返らせました。「自分たちで立てた目標は達成できたか」、「何が上手くできて何が上手くいかなかったのか」、「どう改善していくべきか」、「どんなことを今後の生活にいかしていきたいか」をグループごとに考えさせ、その振り返りをボードに書いて発表・交流しました。活動がやりっぱなしにならないよう、今後に生かすことを意識させました。

「自分たちの活動を振り返る」ことに関する児童の感想

- 説明する力がつき、最初に決めたK S Jを守ることができたか、正確に振り返ることができました。
- 目標を立てるだけではなく、きちんと振り返りをしたので、自分の欠点を再確認することができたと思います。
- その日のことをその日に振り返らないと、何ができて何ができなかったが分からなくなるので、振り返りは毎日やってよかったです。

児童の感想にもあるように、日頃から学校で取り組んでいる主体的な児童を育成するための取組が、野外での長期集団宿泊活動においても実現できました。学んだことを活用するためには、目標を短く表現したことも効果的でした。体験活動が終わっても、子供たちは意識をしています。



K S Jに基づいた実際の反省

ポイント：短く表現

自分たちで決めた目標は、キーワードで表現し、常に意識できるようにしています。

生徒指導の三機能を踏まえた取組ポイント：自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助する



竹原小学校の取組は、子供たちが決められたルールを守り、自分自身で責任が取れる範囲内で、自らが行動を選択し、その行動に責任を取ることでもできる取組です。子供たちの様子にも、自分たちのさらなる可能性について展望している感想が見ることができます。

3 地域の教育力を活用していく取組

学校を中心とした野外での活動を実施することによって、活動の内容を、児童の実態・希望に合ったものにすることができると、他の施設を利用するよりも、児童の主体的な活動が可能になる。

また、地域の資源を活用することができるので、地域の良さの発見につなぐことができる。

(1) 地域の方による講師

- ・ 地元の陶芸家を招いての陶芸づくり
- ・ 地元ホテルにおいての食事マナーの学習
- ・ 市内の栄養教諭への献立、食材等の相談



(2) 地域の資源や学校の施設の利用

- ・ 公衆浴場での入浴
- ・ 調理のための食材の買い物
- ・ 学校での飯ごう炊飯

(グレーチングを利用した手作りのかまど)



「地域の教育力を活用していく」ことに関する児童の感想

- 竹原小学校で過ごすことで、学校の長所や短所を見つけることができました。また、長所を活用するにはどうしたらよいか、みんなで考えることもできました。
- 買い物のとき、今まで話をしたことがなかった地いきの人に声をかけてもらって、仲良くなることができました。
- 自分たちの町で、「こんなことができるんだ。」と思いました。

ポイント：地域の教育力

地域の方々と積極的に関わったり地域の資源を活用した活動を行ったりすることで、子供たちが地域の良さを見つけることができます。

さらにステップアップ!!



体験活動の内容を、子供たちにも考えさせています。体験活動の目標と内容に関連させ、体験活動を通じてどのような自分たちになりたいのかを子供たちに考えさせることで、やりきったときの達成感を、さらに強く感じさせることができます。

4 3泊4日を終えた保護者の感想

- それまで食事の手伝いなどあまりしていなかったが、体験活動後、食事の調理の際、手伝いを積極的にするようになりました。料理に関して興味がわいてきているのを感じます。
- 家に帰ると、自分の洗濯物を洗濯し、全て片付けていました。仕事から帰ってびっくりしました。
- 以前よりは周りを気遣いながら行動できるようになりました。大きな成長ではないけども、体験活動を経験し、少しずつ他の子を思いやることができたのかと思います。
- 自分たちだけで生活していくために、家庭では考えなくてよかったことを必然的に考えて行動しなくてはなりません。そういった環境を用意してもらえたことは、貴重な思い出だったと思います。帰ってきた時、「できたよ。」という顔をしていたので自信がついたと感じました。親が失敗や経験をさせてないだけかも知れないと感じ、意外とたちはできるものだと親として考えさせられました。
- 自炊から洗濯など自分の身の回りのことをすべて自分たちですることで、大変さと自分でもできたという自信がついたと思います。また、友達とたくさんの時間を過ごすことでそれぞれの役割分担などもしっかりとできていたのではないかと思います。
- 活動目標のK（協力する）S（先を考える）J（時間を守る）をその後の生活にも生かすように考えて行動できるようになりました。時計を見て次の行動の支度ができるようになっていきます。